

2年	特に育成したい能力や態度 (具体的な数字や言葉で記載する) 2～3にしぼる。	授業改善の視点と具体的な方策 (具体的に達成すべき数値目標を記載する) 左側のものとリンク【対応させる】	達成率【割合】 A・・・90%以上の児童 B・・・90～80%の児童 C・・・80～70%の児童 D・・・70%以下の児童
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習に慣れ、集中して取り組む児童が多いが、文字の形が取りにくい、読み替えが理解できない児童もおり、漢字の定着率は、上位と下位に別れている。 読み聞かせや読書を楽しむことはできるが、登場人物の心情や様子を読み取ることのできない児童もいる。 作文など積極的に取り組める児童もいるが、拗音、促音、長音、助詞、片仮名の表記が定着していない児童もいる。 スピーチや発表の声が小さい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 部首や似た漢字、読み方の違いに気づかせるように工夫する。朝学習や家庭学習でも繰り返し行う。 読み取りの時の語彙の力を増やすため、ことわざカルタや言葉に注目したスキルの学習をさせる。 作文は、書けたことを認め、嫌いにならないよう、書く機会を増やすことで文章を書けるようにしていく。 発表前にメモや練習をすることで、抵抗を減らし、自信をもって発表できるようにする。 	<p>【成果】漢字の学習に慣れ、集中して取り組む児童が多くいる。ただ期間があくと忘れてしまうため、反復練習が必要。</p> <p>本を手にとって読む児童は4月当初よりも増えたが、読み取りはまだまだ苦手。</p> <p>作文などは拗音、促音、長音、助詞、片仮名の表記がだいぶ定着してきた。(達成率C)</p> <p>【課題】登場人物の心情や様子を読み取ることはできるが、文章化するのが難しいと感じる児童が多い。スピーチや発表の声が小さい。</p>
算数	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し上がり、繰り返し下がりのある筆算は、ほとんどの児童が定着しているが、期間が空くとあやふやになってしまう児童もいる。特に繰り返し下がりのある筆算は苦手な児童が多い。 長さやかさの学習では、具体物を用いて、視覚や操作を通して理解できている。細かい数値を読み取ったり、単位の変換をしたりすることに課題がある児童がいる。 3桁の数では、10のまとまりや100のまとまりなど、位を意識して数を捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に計算のプリントで練習し、定着を図る。足し算と引き算が混ざった問題に取り組む。また、デジタルドリルを活用し、確実な定着を目指す。 日常生活の中で、長さやかさに関する事を取り上げ、実体験から定着できるようにする。 復習を行なう際に、1目盛りがいくつを表しているのかを捉え 	<p>【成果】具体物を用いて、視覚や操作を行うと理解することができる。(達成率B)</p> <p>【課題】繰り返し上がり、繰り返し下がりのある筆算や長さ、かさの学習など期間が空くとあやふやになってしまう児童が多い。数直線の1目盛りがいくつを表しているのかを読み取るこ</p>

	数直線の1目盛りがいくつを表しているのかを読み取ることは全体的に課題がある。	るように意識させる。	とは全体的に課題がある。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 学校付近や自宅付近の建物やお店はわかっているが、地図になると、自宅のだいたいの場所がわからなくなる児童が多い。 興味、関心をもって野菜の観察や世話、収穫をすることができる。観察の視点も増えてきている。1つの視点について、より詳しく文にすることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察メモを活用し、じっくり観察してから詳しく文を書く練習をさせる。また、伝え合う活動もさせる。 	<p>【成果】興味関心があり、多くの観察の視点をもたせることができた。(達成率 B)</p> <p>【課題】言葉だけでは見通しをもてない児童が多く、活動に時間が必要。見通しがもてれば、粘り強く取り組むことができる。</p>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 教材文を読み、自分だったらどうするか考えられるようにする 日常生活の中で、学習したことを生かして、より良い態度をとったり、温かな人間関係を築いたりすることができるようにする。 教材を通して考えたことや思ったことを自分の言葉で書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材文の場面を想起できるよう、掲示物を使用したり、役割読みをしたりし、登場人物の心情に寄り添えるようにしていく。 良い行動を褒め、自己肯定感を高めていく。友達の良い所が見付けられるよう、他教科・領域の学習や日常生活の中でも働きかけていく。 授業の流れを明確化し誰もが取組めるようにする。振り返りの場面ごとにペアや全体での意見交流をさせ、全体で発表させ合い、考えを深めたのちに本時の授業から感じた「自分ならこうする」といったことを振り返りのマークとともに記させた。 	<p>【成果】教材文を読み、自分だったらどうするか考えられる児童が多い。</p> <p>日常生活の中で、学習したことを生かして、より良い態度をとったり、温かな人間関係を築いたりすることができる。(達成率 B)</p> <p>【課題】教材を通して考えたことや思ったことを自分の言葉で書けない児童がまだまだ多い。</p>